

バリアフリー観光 芽吹く

道内、要介護や障害者向け



ヘルパーと札幌市内を周遊する夢たび利用者(写真上)。クラブツーリズムはデュアルスキーセンターの道内ツアーを催す(同下)

要介護や障害者向けのバリアフリー観光が北海道で育ちつつある。介護付き旅行を手掛ける秋吉(札幌市)は今春に首都圏で付添いのヘルパー要員を確保。旅行大手のクラブツーリズムは20日、障害者を対象とした首都圏発着のスキーツアーを催行する。道内の受け入れ態勢の整備も進んでおり、家族の負担を気にして旅行を控える人に配慮したサービスで、新たな需要を取り込む。

秋吉の「夢たび」

首都圏客にも対応

クラブツーリズム

着座スキーツアー

秋吉の介護付き旅行「夢たび」は、ヘルパーなどの有資格者が接客の研修をした上で、旅行に帯同する。2015年に始めた。同タイプの商品は道内初という。旅行前に本人や家族と面談し、都圏と道内のヘルパーが

約15人いるが、新たに

首都圏の介護関連施設で

働く5人と契約する。首

都圏と道内のヘルパーが

約150人だった。

これまで道内在住者のみだったが、問い合わせの4割ほどは首都圏か

ら引き合いが強く、サ

ーピスの拡大を決めた。

3年内をメドに関西や九

州での事業展開も視野に

に入る。外国语を話せる

ヘルパーも育成中で、将

来は海外の要介護観光客

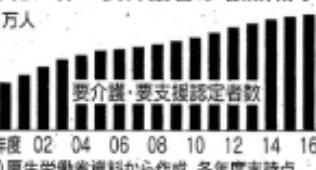
クラブツーリズムは日

本航空などと連携し、デ

ュアルスキー(着座式ス

キー)を組み込んだ新た

高齢化に伴い要介護者は増加傾向



な体験型ツアーを催す。クラブツーリズムのバリアフリー専門の募集型企画旅行は、車椅子でも乗り降りしやすいバスや、宿泊先でバリアフリー設備などを手配し、看護師などがトイレや入浴を介助するサービスも

道内の社会福祉法人が運営したほか、既存の宿泊施設でも一部の居室を取り扱う。新たな顧客層を取り組み、これまで外国人客数は大きく増加する一方、国内客数は伸び悩む傾向にある。新たな顧客層を取り組み、これまで道内では外国人客数は大きくなり、旅行需要の拡大が期待できる」と話す。

JTB総合研究所の若原圭子主席研究員は「ユーバーサルデザインの旅行スタイルが広がることで、要介護者や障害者にとってまらず高齢者や外国人なども旅行に出かけやすくなる」と話す。道内では外国人客数は大きくなり、旅行需要の拡大が期待できる」と話す。

道内では外国人客数は大きくなり、旅行需要の拡大が期待できる」と話す。

道内では外国人客数は大きくなり、旅行需要の拡大が期待できる」と話す。

道内では外国人客数は大きくなり、旅行需要の拡大が期待できる」と話す。

道内では外国人客数は大きくなり、旅行需要の拡大が期待できる」と話す。